

61. ウズマキ

0810920082 小阪健
指導教員 市川尚紀 講師

視線 広場 管 つながり

1. 設計趣旨

現在、日本国有鉄道が民営化され、企業となり、利益を求められている。鉄道の利用客に百貨店で買い物をしてもらおうという相乗効果を狙い、都市の駅舎に駅機能以外の機能を持たせた駅ビルという巨大な複合建築物がつけられた。しかし、駅ビルは駅とまちの間に壁として立ちふさがり、駅のホームに降り立っても、駅ビルによって、まちの姿が隠れ、まちに着いたと感じなくなっている。反対にまちからも駅という存在が認識されにくい。そこで、駅とまちに視線のつながりを持たせることにより、ホームに降り立った時、まちに着いたと実感でき、胸の鼓動が高鳴るようなまちの玄関として計画した。

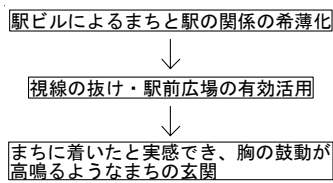


図 1 コンセプト

2. 計画地概要

計画地である広島駅は南区松原町に位置しており、中国・四国地方で最も多くの人口をもつ広島市の中心駅である。乗降客数は1日約14万人となっており、約10万人が南口の利用者、約4万人が新幹線口の利用者となっているにもかかわらず、広島駅の周辺は、デパート、病院、ホテルなど施設が一通りあるにも関わらず、賑やかさに欠け、閑散としている。

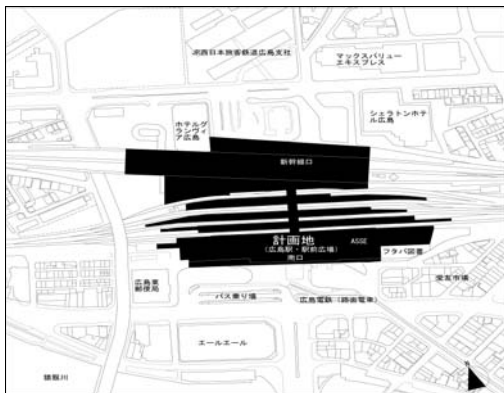


図 2 計画地周辺図

3. 計画内容

3.1 視線

今まで、駅とまちは駅ビルによって分断され、駅は孤立した状態になっている。そこで、駅ビル（商業施設など）と駅の機能（屋根・自由通路・連絡通路・昇降機能・券売所・駅長事務室・改札など）を一体化させ、ピロティ型として線路とホームの上部に配置するように計画する。駅とまちの視線が抜けることで、今まで隠れて見えていなかった電車やホームはまちに溶け込み出す。また、上部に配置することにより、その分のスペースができ、駅前広場の拡大にも繋がる。

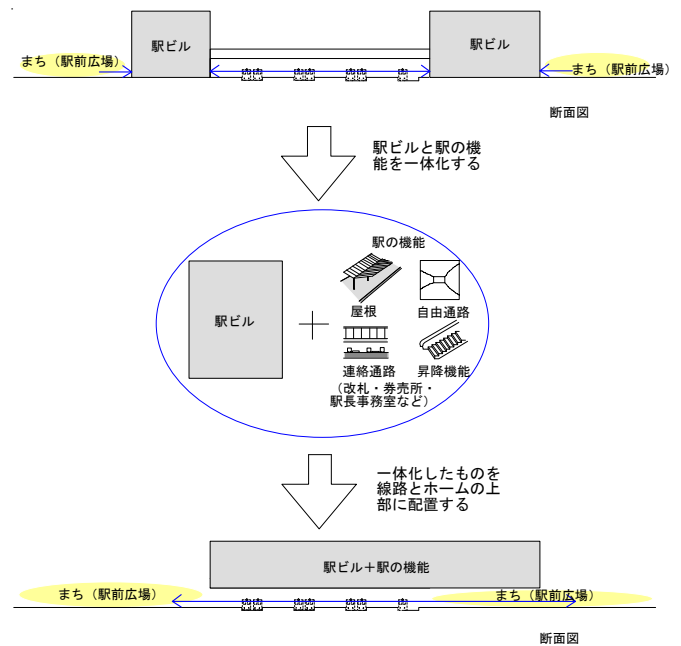


図 3 視線の抜け・駅前広場の拡大

3.2 市民がつくる広場

駅前広場拡大により、駅前広場を今まで、場所が制限されていた路上パフォーマンス（ダンス・バンド演奏・大道芸・漫才など）の発表の場や、イベント（祭り・物産展・芸術展など）が行うことができるようにする。市民がつくる広場として計画することで、活気や賑わいのある空間の形成を図る。また、毎日、時間帯によって、景色が移り変わる広場となる。

3.3 ホームでの待ち時間

利用者にまちを意識させるように、仕向けるため、ホームに階段状の座ることのできる場所を取り付けることで、ホームは駅前広場を見る観客席となるように計画する。

利用者にまちを意識させることで、まちに興味を持ってもらい、まちのアピールを図る。

また、座席の拡大にもつながり、休憩場所としても多くの利用者が活用することができる。

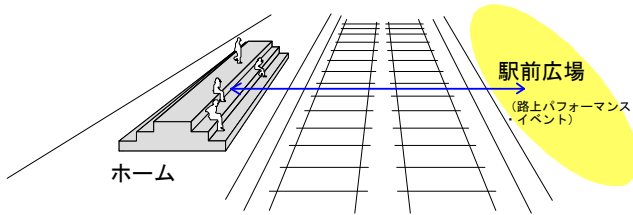


図 4 ホームと駅前広場のつながり

3.4 構造体と昇降機能

現在は、駅と駅ビルの構造や昇降機能のつながりはなく、それぞれ、別々に計画されており、駅ビルは駅に建てられてもいるものの、まちで見かけるデパートと変わらない。そこで、柱（構造体）と昇降機能と吹き抜けを一体化させることによって管をつくる。管によって視線・音・光・空気が繋がることによって、それぞれ駅・デパートの臨場感が味わうことができる。また、有効スペースの拡大・自由度が高くなる。

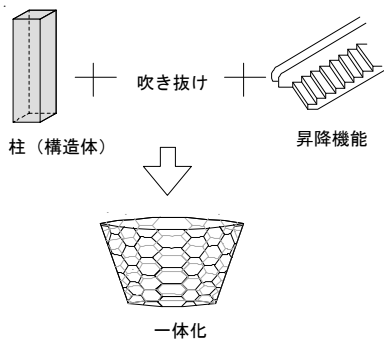


図 5 柱と吹き抜けと昇降機能の一体化

3.4.1 形成過程

(1)吹き抜けの大きさ

- ・小さい→目印にならない
- ・大きい→利用者の自由度が低くなる

(2)吹き抜けの形

四角よりも円形の吹き抜けの自由度が高くスムーズに行動できる。

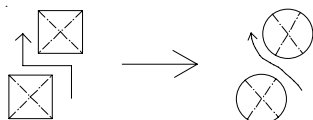


図 6 吹き抜けの形

(3)構造と昇降機能

昇降機能と踊り場が設けられる構造として、六角形を組み合わせた構造体とすることで、構造体に昇降機能を取り入れることができる。

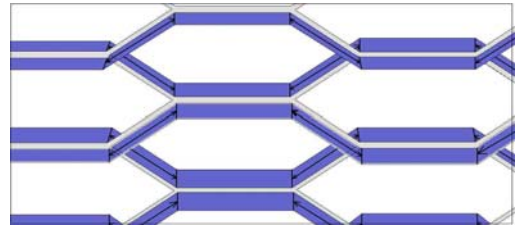


図 7 構造と昇降機能を組み合わせたイメージ

3.5 自由通路

現状として、ただ南北をつなげる通路だけの機能となっている。そこで、道行く先に商業施設を配置することによって、商店街のような賑わいのある空間となる。それにより、駅利用者と市民の利用増加につながる。また、多方向から南北の通り抜けができるように計画する。

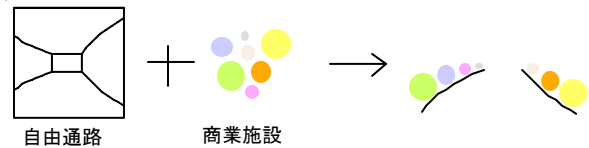


図 8 自由通路と商業施設の一体化

4. 総括

本計画では広島駅は現在、駅ビルによって、駅とまちの関係が希薄なり、駅利用者は淡々と移動し機械的になって動いている。そこで、視線の抜けによるつながりを持たせることにより、駅のホームに降り立ったとき、駅前広場（まち）を見ることにより、まちに着いたと実感でき、胸の鼓動が高鳴るようなまちの玄関としてなることを期待する。また、まちからは駅のホームに人だまりのような風景を見ることで、駅を以前よりも強く意識してもらうことを期待する。

また、柱（構造体）と昇降機能と吹き抜けを一体化させることによって管ができる。管によって視線・音・光・空気が繋がることによって、それぞれ駅・デパートの臨場感が味わうことができることによって、駅にデパートが複合することで相乗効果を生むことを期待する。

これから、通勤・通学・旅行などで広島駅に来たとき、ホームに降り立つことが楽しみになることを期待する。

建築概要

所在地：広島県南区松原町

広島駅+広島駅周辺

主要用途：駅、複合施設

規模：3階建て